

ORACLE向けの コンポーザブルERP

自分のロードマップ
自分のアドバンテージ



Rimini Street

はじめに

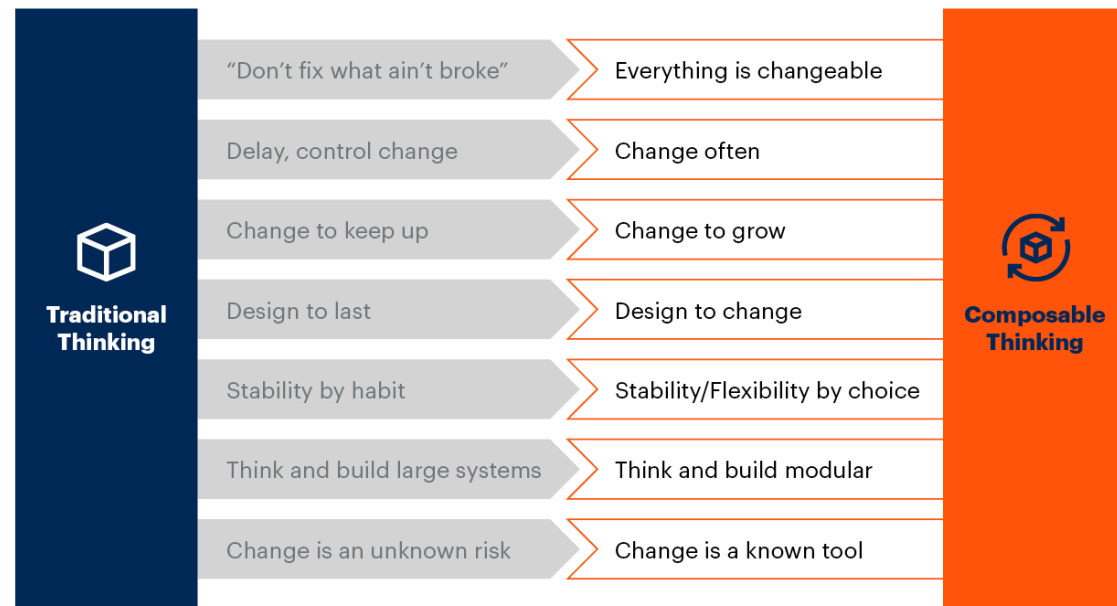
消費者行動と働き方はパンデミックの間に大きく変化しました。ネットショッピングが広まり、店頭での買い物から、宅配便の利用やオンライン購入と店頭受け取りに変わりました。オフィスに出勤する代わりに、在宅勤務をするようになりました。顧客と従業員の新たな期待に迅速に対応できた企業が力強く台頭し、競争上で優位性を得ました。それ以外の企業はまだ取り組みを強化しようとしている段階です。

パンデミックの間に優位性を得た企業は、「コンポーザブルな思考法」を活用した企業だと言えます。

コンポーザブルな思考法とは、経営幹部が変化をリスクではなく、機会と見なすように考え方を転換することを薦めています。つまり第一に、不況、パンデミック、地政学的変化などの外的変化の中に機会を見出し、それを破壊の機会として活用することです。そして第二に、デザイン原則のクリエイティブな活用を会社全体で推進することです。¹

パンデミックの間に躍進した企業と、そうでなかった企業のどちらにもチェンジマネジメントという課題が残っていますが、OracleのERPを導入している企業の多くは、次世代ERPをどうするかと言う、もう1つの重要な意思決定に迫られています。しかし多くの場合、コンポーザブルERPを選択することにより、画期的なイノベーションへの道が開かれる可能性があります。

Adopting Composable Thinking



Source: Gartner
753614_C

Gartner

図1

Gartner®社のレポートでは、従来の思考法とコンポーザブルな思考法を図1のように並列して示しています。²

コンポーサブルERPとは？

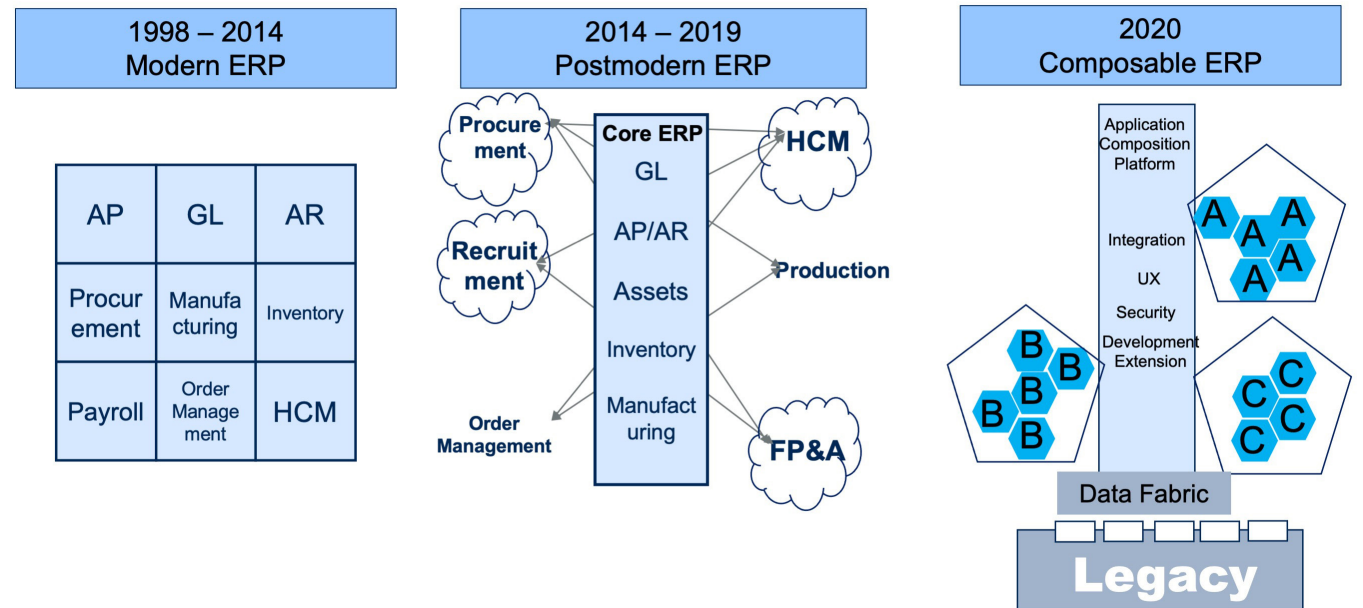
コンポーサブルERPとは、プラグ&プレイモデルであり、企業は簡単に統合できるERP要素を選択することが可能になり、変化する市場状況に応じてより良いユーザーエクスペリエンスをより迅速に提供できます。³

Gartner社のレポートでは、次のように記述されています。「コンポーザブルERPは、企業がビジネス変化のペースに乗り遅れないようにするための基礎、管理、運用等のデジタル機能を実現する適応型テクノロジー戦略であり、この戦略は、コンポーザブル・アプリケーションの中核、そして最新技術に適応するための高度な構成可能性、相互運用性、柔軟性を備えたソフトウェア・プラットフォームをサービスとして提供します。」⁴

図2は、Gartner社の動画レポートによるモダンERPからポストモダンERP、コンポーサブルERPに至るまでのERPの歴史を示しています。⁵

図2

The Past Present and Future of ERP



© 2020 Gartner, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーザブルERPの利点

ERPをモダナイズする大きな利点とは「超大型タンカーを丸ごとアップグレードするような労力」を伴わずに、組織が必要とする機能を獲得できることです。³ このアプローチは、近年のテクノロジーとビジネスの変化のペースに非常に合致しています。

コンポーザブルERPでは、会計や受注管理などのコア機能の周囲を新興技術に基づく可動型のエンタープライズ・ビジネス機能（EBC）が取り囲んでいます。ERPのコア機能は信頼性が高く、以前からのビジネスプロセスであり、ベンダーから購入するのが妥当です。一方、差別化を実現する可用性の高い新技術のコンポーネントは、ローコードメソッド⁶を使って組み立てることができ、より迅速かつ効率的なアプローチです。

コンポーザブルERP戦略は、イノベーションに必要なアジリティ、スケーラビリティと相互運用性の改善を企業に提供すると同時に、データ中心のプロセスへのアクセスを向上します。また、潜在的なシステムの中断に対する耐性を実現するのにも役立ち、不安定な市場の状況に耐えるための重要な利点となります。

コンポーザブルERPには以下のような利点もあります。⁷

- ビジネスの変化に自信を持って対応できる。
- 企業がERPに適応するのではなく、ERPを企業側に適応させることができます。
- 柔軟性のないシステムによるビジネスリスクの軽減。

Oracle向けコンポーザブルERP: ビジネス主導型のロードマップの推進

エンタープライズERPがOracleの場合、コンポーザブルなアプローチはイノベーションを加速するのに役立ちます。このアプローチは、ビジネス主導型ロードマップ内の選択肢を広げ、ITアクティビティを単一ベンダー主導型ロードマップに従って行うのではなく、ビジネスの優先順位 (図3) に合わせて調整することができます。

昨今の環境下では、企業が多様なビジネスユーザーのニーズを満たしながら差別化を実現し、トランスフォーメーションを推進していくには、柔軟性とアジリティが必要です。没用的なOracleのロードマップに従うと、成長に最適なオプションと自由度が得られない場合があります。

リミニストリートでOracleサービスグループバイスプレジデントとジェネラルマネージャーを務めるFrank Renekeは次のように説明します。「当社では、企業のアプリケーション戦略が、ベンダーの強要するロードマップにより決定されるべきではないと考えています。目を向けるべきなのはトランスフォーメーションのためのスマートパスであり、それには既存のアプリケーションを保持・最適化しながら、競争優位に立つために最も重要なそれらのアプリケーションを最新化することを優先するために、サポートサービスを利用することが含まれます。」

「経時的に移行したい場合はそれも可能ですが、ベンダーがベンダーによって設定された期限によって意思決定を急ぐべきではありません。」

幸いなことに、Oracleのお客様は、独自のロードマップを作成し、コンポーザブルERPに移行し、トランスフォーメーションの実現に最適なERPの構成を決めることができます。次のページでは、3つの選択肢を紹介します。

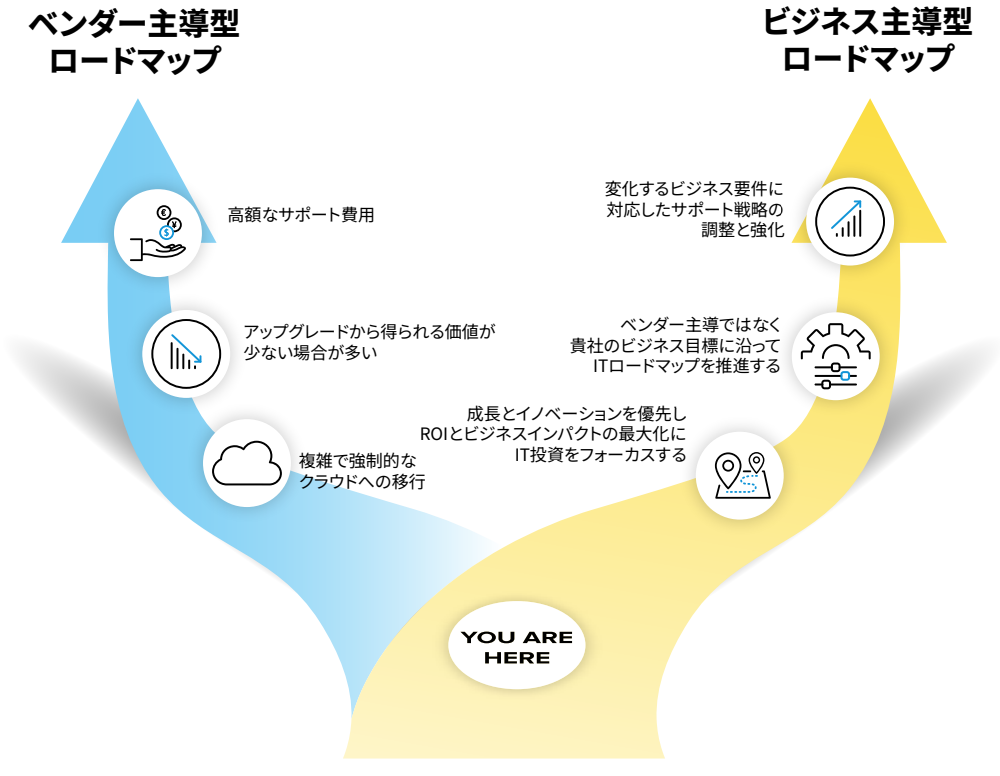


図3: ビジネス主導型ロードマップの利点

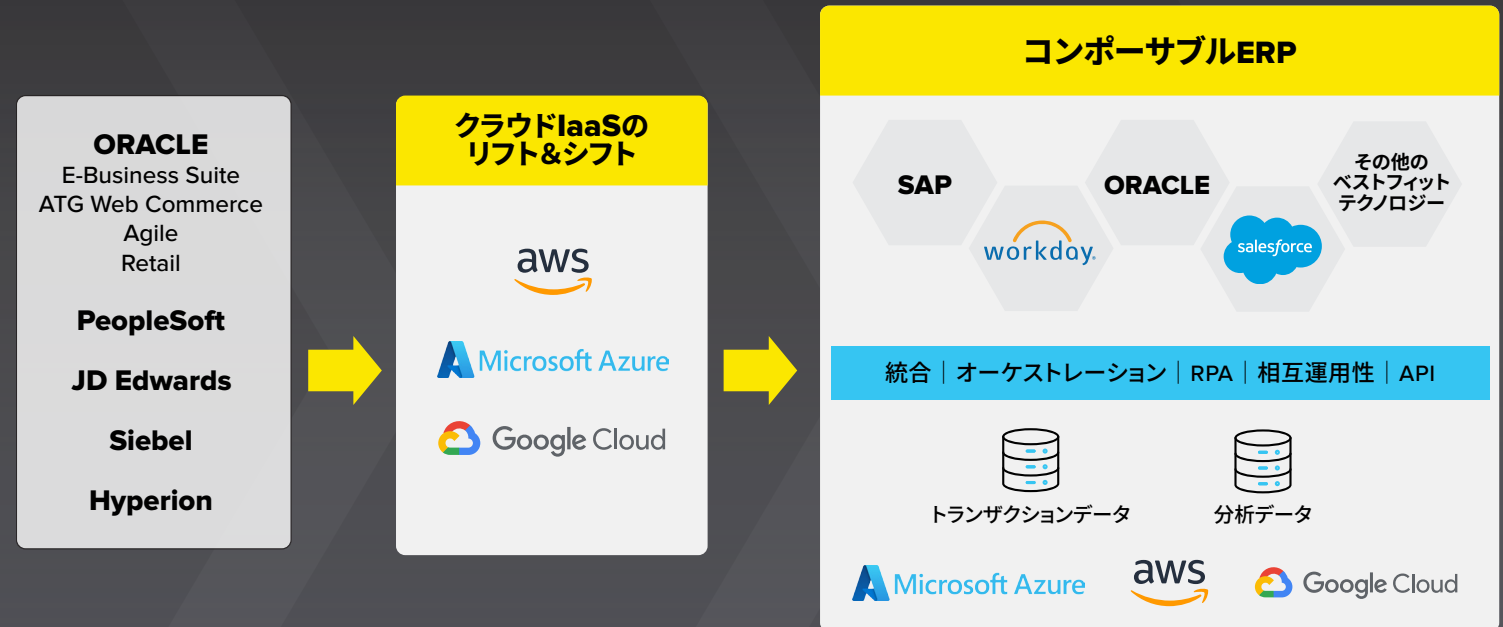
コンポーザブルERP：

現行のソフトウェアリリースを継続使用し、エッジでイノベーションを起こす

E-Business Suite、PeopleSoft、JD Edwards、Siebel、Hyperionなど、カスタマイズされた高機能なOracleアプリケーションが貴社のビジネスニーズを満たしており、アップグレードやOracleのロードマップに従うビジネスケースがない場合、クラウドアプローチに沿ったコンポーザブルERP戦略は、既存のOracle投資を最大限に活用しながらイノベーションと成長をもたらすスマートパスとなる可能性があります。また、ベンダーサポートから第三者保守のサポートおよびマネージドサービスに切り替えることで、サポート費用を削減でき、Oracle ERPの周辺のイノベーションを賄うことができます。

図4では、OracleアプリケーションをクラウドIaaSに「リフト&シフト」し、最適なテクノロジーでコンポーザブルERP戦略を実現するまでの経過を示しています。

図4: コンポーザブルERP: 現在のソフトウェアリリースを継続使用し、エッジでイノベーションを起こす



コンポーザブルERP：

最新のソフトウェアリリースに対するOracleサポートの補完

最新のOracleリリースとOracleサポートを利用しながら、一部のアプリケーションをクラウドに移行する場合、コンポーザブルERP戦略を追求することが、ROIを計算し、移行を計画しながら、トランスフォーメーションと成長を実現するスマート・パスになる可能性があります。また、オラクルのサポートを第三者保守のサポートやマネージド・サービスで強化すれば、クラウドへのスムーズな移行、的確なランディング、そして導入当初からのSaaSの成功を促進することができます。

図5では、機能を拡張し、コンポーザブルERP戦略を使用してビジネス主導型のロードマップを計画し、最適なテクノロジーへの移行を選択するための経過を示しています。

図5: コンポーザブルERP: 最新のソフトウェアリリースに対するOracleサポートの補完



ベストフィット・テクノロジーへの移行

企業に最適なテクノロジーへの完全移行を計画しており、移行に十分な時間を確保したい場合、コンポーザブルERPとビジネス主導型ロードマップは、移行に伴うイノベーションを促進するのに役立ちます。このアプローチには、次のような利点があります。

- ベンダーのサポートから第三者保守のサポートとマネージドサービスに移行することで、サポートの削減額を利用して自己資金でトランスフォーメーションを実現できます。
- Oracle ERPとOracleエコシステムを実行、管理、保護できる専門のサポートパートナーがいれば、Oracleのロードマップではなく、自社のロードマップに沿ってイノベーションを起こすことができます。
- 中断を最小限に抑えたスムーズで低コストの移行を経時的に準備するための柔軟性を得ることができます。

図6では、移行最適化のタイムラインを含め、最適なテクノロジーを使用した完全にコンポーザブルERPへの過程を示しています。

図6: コンポーザブルERP: ベストフィット・テクノロジーへの移行



なぜベンダーロックインではなく コンポーザブルERPなのか？

すべてのソフトウェア・アプリケーションを1つのベンダーから購入する場合、制限が厳しくなるという課題があります。Oracle SaaS ERPを選択すると、Oracleへの依存度が高まります。また、ライセンスを所有するOracleソフトウェアをSaaSテクノロジーに置き換えることを選択した場合は、永久ライセンスを放棄することになる場合があります。

Oracle SaaS ERPには、最適なクラウドオプションを選択できる柔軟性が欠けており、Oracle SaaSに移行するOracleのお客様は、他のプロバイダによる最適なテクノロジーを追加または統合する余地はほとんどありません。安定したコアOracleアプリケーションをOracleクラウドアプリケーションに置き換えることは、イノベーションを推進し、市場環境、消費者行動の変化、経済の混乱に迅速に対応するための可能性や構成が無限であるというコンポーザブルERPの戦略や利点に反しているように思われます。

Oracleクラウドアプリケーションへの移行を検討している場合は、以下を考慮に入れてみると良いでしょう。

- Oracle製品の過去のコストとそれらから得た価値
- Oracleサポートの過去のコストとそれらから得た価値
- Oracleクラウドアプリケーションの成熟度とERP最新化に最適な基準への適合性
- 契約書の細則に記載されている、特典や制限を含むOracleからの金銭的インセンティブの現実
- Oracleとの全体的な関係を把握し、クラウドベンダーとしてOracleとの関係を強化することが金銭的および戦略的に快適であると思われるかどうか

リミニストリートでOracleサービスグループバイスプレジデントとジェネラルマネージャーを務めるFrank Renekeは「コンポーザブルERPは、競争に勝ち抜くために柔軟性と俊敏性を必要とする複雑なビジネスを展開するOracleのお客様にとって、実績のある戦略です。昨今の変化が激しい世界では、Oracleの顧客は独自の道を自由に選択できるはずであり、単一層のERPプラットフォームや単一ベンダー主導のロードマップに縛られるべきではありません。」と説明しています。

経営幹部が注目するコンポーザブルERPの検討事項

経営幹部（または経営幹部に向けてビジネスケースを作成するITリーダー）は、コンポーザブルERPを選択することが正しい解決策かどうかをどのように判断すれば良いのでしょうか？検討すべき項目は以下の通りです。

- 思い描くビジネス成果と達成するための最善の方法
- 現在のITロードマップとそれがどの程度役に立っているか？
- クラウドビジョンとERP改修計画
- 次世代ERPのためのOracleのリリースとデータベース
- ビジネス環境の変化に対応する能力と、その能力を向上できるかどうか
- 利用可能なITリソースと、それらをより効率的に割当てられるかどうか
- トランスフォーメーションによって迅速にビジネスの成果を上げる能力
- 長くて費用のかかるITの実装や移行に対するステークホルダーの忍耐力または耐性

これらを検討した結果、成果の向上、成長、アジリティの向上、戦略的イニシアティブのためのITリソースの拡大、ビジネスパートナーとのより強いパートナーシップなどの機会が明らかになった場合、コンポーザブルERPがソリューションとなる可能性があります。



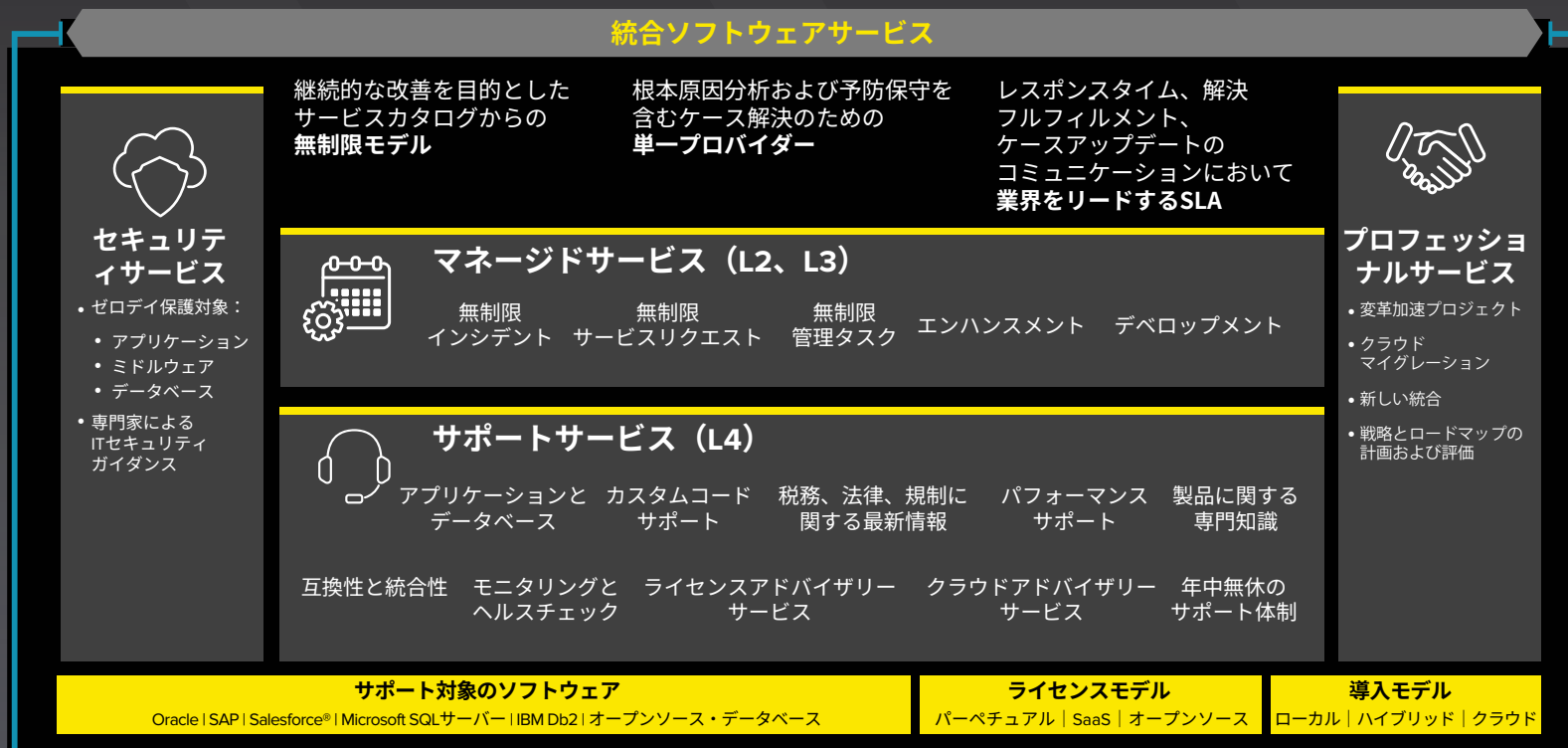
リミニストリートがお手伝いします。


リミニストリートは、包括的なL4製品サポート、マネージドサービス、セキュリティおよびプロフェッショナルサービスなどを統合したソフトウェアサービスを提供しています。

- 現在のソフトウェアリリースを継続使用し、エッジでイノベーションを起こすコンポーザブルERP
- 最新のソフトウェアリリースに対するOracleサポートを補完するコンポーザブルERP
- コンポーザブルERPを併用した最適なテクノロジーへの移行

図7では、コンポーザブルERP戦略向けのリミニストリートの統合ソフトウェアサービスを示しています。

図7: コンポーザブルERP向けのリミニストリート統合ソフトウェアサービス





**お客様のOracle利用方法がどのような形でも、
リミニストリートが最適な戦略的
パートナーになります。**

リミニストリートは、Oracle ERPやOracleエコシステムの計画、運用、管理、セキュリティの保護をサポートします。これによって、お客様独自のロードマップに沿ってイノベーションを推進し、ビジネス環境の変化に遅れを取らずに、競争の優位性を確保し、Oracleへの投資を最大限に活かせるように支援いたします。

詳細については、[Oracle向けリミニストリート統合ソフトウェアサービス](#)をご覧ください。

Rimini Street[®]

¹ Flowable. “Composability – The Future of Enterprises.” 2022年4月4日

² Gartner, Becoming Composable: A Gartner Trend Insight Report, Yefim Natis, Janelle Hill, Partha Iyengar, Gene Alvarez, Jennifer Loveland, Chris Howard, 2021年9月17日

³ TechTarget. “Experts predict flexibility as a top ERP trend in 2022.” Jim O’Donnell, 2022年1月10日

⁴ Gartner, The Collective Governance for Composable ERP Deployment, Duy Nguyen, Tim Faith, 2021年9月30日

⁵ Gartner, Expert Insight Video: How to Launch a Composable ERP Strategy, Tim Faith, 2021年4月12日

⁶ TechTarget. “Evolution of postmodern ERP to composable ERP explained.” David Essex, 2022年3月30日

⁷ Unit4. “Flexibility and industry specificity are top ERP trends for 2022.” 2022年3月3日

Rimini Street®

riministreet.com/jp | contactjp@riministreet.com | linkedin.com/company/rimini-street | twitter.com/riministreet

リミニストリートについて

リミニストリート（Nasdaq: RMNI）は、エンタープライズソフトウェア製品とサービスのグローバルプロバイダーであり、OracleおよびSAPのソフトウェア製品に対する第三者保守サポートにおいて業界をリードしており、またSalesforce®のパートナー企業でもあります。*リミニストリートは、エンタープライズソフトウェアライセンスにおいて、大幅にコストを削減し、イノベーションのために資源を自由にし、より良好な業績結果を達成することが可能となる、プレミアムで、非常に応答性が高い、統合型アプリケーションマネジメントおよびサポートサービスを提供しています。業界を問わず、フォーチュン500のグローバル企業、中堅企業、公共セクター組織等を含む顧客が、信頼できるエンタープライズソフトウェア製品とサービスのプロバイダーとしてリミニストリートにサポートを委託しています。

©2022 Rimini Street, Inc. All rights reserved. Rimini Street は、米国およびその他の国における Rimini Street, Inc. の登録商標です。Rimini Street、Rimini Street ロゴ、およびその組み合わせ、その他 TM の付いたマークは、Rimini Street, Inc. の商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者の財産権を構成するものであり、別段の記載がない限り、Rimini Street は、これらの商標保有者またはここに記載されているその他の企業との提携や協力関係にあるものでも、またそれらを支持しているものでもありません。この文書は Rimini Street, Inc.（「リミニストリート」）により作成されたもので、Oracle Corporation、SAP SE、または他のいかなる団体によっても後援、承認、または関係付けられたものではありません。別途、書面による明示的な記載がない限り、リミニストリートは記載されている情報について、いかなる責任も負わず、また、商品性または特定目的への適合性の黙示的保証を含むがこれに限定されないすべての明示的、黙示的、または制定法上の保証を行いません。いかなる場合でもリミニストリートは、この情報の使用または使用が不可能な事態によって生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特別的、または付随的損害のいずれに関する責任を負いません。リミニストリートは、第三者により提供された情報の正確性または完全性について一切の表明または保証を行わず、当該情報、サービス、または製品について随時変更する権利を有します。LR0009906 LT-US-101922